

難民支援

～私たちに できることは？～



児童たちに、「難民問題を解決するために、できることはなんだろう?」と問いかける天沼氏

2015年1月31日(土)、東京都東村山市立秋津小学校6年生2クラスを対象に、国連UNHCR協会の天沼耕平氏は「難民問題を前に、私たちは何ができる?」をテーマに授業を行いました。今号では、授業の様子をお伝えするとともに、改めて難民支援について、私たちにできることを考えてみます。

まずは「知る」ことから始めよう

「皆さんは、紛争や迫害等によって難民となった人々たちを支援するUNHCRや国連UNHCR協会を知っていますか?」児童たちへの問いかけから、ゲストティーチャーである天沼氏の授業は始まりました。児童たちからは、「ユニセフは聞いたことあるけど...」「国連とは違うの?」などの声が上がります。

天沼氏は、国連にはいろいろな役割があり、ユニセフは世界中の子どもたちの命を守るために活動する国連機関であること、またUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は難民問題の解決に向けた活動を行う国連機関であり、国連UNHCR協会は、UNHCRを支える日本の公式支援窓口であることを説明します。今まで漠然としていた「難民問題」や「国連機関」についての理解を深め

てもらえるよう、やさしく語りかけながら授業を進めます。

また、UNHCRの活動をまとめたDVDを見せながら、世界には紛争や迫害によって故郷を追われた人々が約5120万人もいて、彼らの多くは水や食糧等が足りない、貧しくて過酷な生活を送っていると報告すると、普段の生活ではなかなか意識することのない世界の現実に、子どもたちから驚きと戸惑いの声が上がりました。

天沼氏は、続けて難民キャンプや難民たちの生活を撮影した写真を数点黒板に貼り、「写真からどんなことが読み取れるのか」を児童たちに問います。「建物がない」「食糧が足りない」「毛布に包まっついて寒そう。洋服がない」など、さまざまな意見が出ます。天沼氏が、「ないものは『モノ』だけかな?写真を見てほかに何か思いつくことはない?」と尋ねると、子どもたちは考える表情を見せながら、「そうか! 紛争から逃げてきたから、平和がないんだ」「自由もない!」「仕事がないんじゃない?」などの意見が飛び交いました。

天沼氏は、「難民になるといことは、仕事や家などの財産を失うだけでなく、働く権利や移動の自由といった人権も侵害されます。いつ故郷へ帰れるかわからない中での避難生活は、20年以上になることもあるんだよ」と説明しまし



難民生活の実態を説明する天沼氏の話に熱心に聞く児童たち

児童たちから出た意見

難民の人に どんな支援が必要か？			
平	和	生	活
権	利	自	由
お	金	食	糧
政	治	安	全
水		建	物
愛	情	医	療
			等

「では、難民たちへどんな支援が必要だと思う？」と天沼氏が問いかけると、児童たちから左表のような意見が出ました。

難民の実態を知る

た。自分たちが生きてきた期間よりもはるかに長い避難生活の長さにより、子どもたちはしばしば言葉を失います。

難民支援のために
できることを考える

授業の終盤、天沼氏は「難民支援のために、自分たちにできることを考えてみよう！」と児童たちへ問いかけ、3つの切り口を示しました。児童たちから出たさまざまな意見を、黒板にどんどん書いていきます。

児童たちからは、「自分はとても恵まれた生活をしているんだと気づきました。もっと感謝しなければいけないと思

続けて、天沼氏は難民の子どもたちの栄養失調の実態を理解してもらうため、「命のメジャー」を配りました。これは5歳未満の子どもの栄養状態を診断するために使われるメジャーで、上腕の太さを測定します。深刻な栄養失調に陥っている子どももほど、赤色の細さとなり、その細さはペットボトルのキャップにたとえられます。児童たちは実際にメジャーを腕にはめることで、自分たちの上腕よりはるかに細い栄養失調の子どもたちがいることを実感します。ある児童からは、「こんなにガリガリの腕ってあるの？」と声が上がりました。「難民問題に接する機会は少なくても、難民たちの過酷な現実を知る、彼らの立場に立って考えることで、自分たちもつながつている、という意識をもつことができる」と天沼氏はいいます。

将来自分にできそうなこと	今の自分にできること	今、日本の社会にできること
<ul style="list-style-type: none"> 募金活動 ボランティア活動 チャリティマラソンに参加 食糧を送る 医者等、人を助ける仕事に就く等 	<ul style="list-style-type: none"> 募金活動 無駄使いをしない【節水】 実情を人に伝え、お金を集める 着なくなった服などを寄付する ゴミのリサイクル ペットボトルのふたを集める 平和を願う 等 	<ul style="list-style-type: none"> 毛布や衣類等の物資を届ける 医療等の面で、企業が援助する 他国へも援助を呼びかける 戦争をとめる 貿易等で配慮する 日本の技術や教育を伝える 等

いました。「自分たちにできることをやっていききたい」といった感想が聞こえました。天沼氏は、「日本にいる私たちにもできる支援がある、ということを知ってほしい。今日の授業が、将来、少しでも国際分

教職員の皆さまへ

国際協力や人権についての学習の一つとして、「難民支援」を取り上げてみませんか。

国連 UNHCR 協会ホームページ上の「団体・学校の皆さまへ」コーナーに、学校での学習実践例など、参考情報を掲載しています。

ぜひ、ご覧ください。

<http://www.japanforunhcr.org/>



難民支援現場で実際に使われている「命のメジャー」

野に関心をもったり、なんらかの形でかわっていきつかけになったらとても嬉しい」と語ります。「自分にもできることはある」と気づくこと——それが、難民支援の第一歩になるのです。